

「ろう教育について」山原愛子さん講演会から

手話を始めて2年半になりましたが、遅々として進まない手話技術だけでなく、ろう者についての理解もまだまだである事を痛感した講演を聴きましたので、一人でも多くの方に、ろう者について知って頂きたいと内容をまとめましたのでご紹介します。

初めに耳の働きについて、クイズ形式で、① 聴く、聞く ② 平衡感覚(ストマイろう者は当初まっすぐに歩きにくかったそうです。) ③ 聞こえる方向がわかる という3つの働きがある事が説明され、健常者は、何か音が聞こえるとその方向に思わず目をやります(無意識に)。昔、授業中に生徒に「目が動く」と指摘されたそうです。

ろう者と盲者の1番の違いは、① 健常者が耳を塞いでもある程度音が聞こえるので、ろう者から見ると聞こえる事になる。つまり、健常者はろう者を経験できない。② 目を閉じれば、健常者も盲者と同じに全く見えない。③ 死ぬ際には、耳は最後まで働いている、聞こえている。これらが、見えない事と聞こえない事の大きな相違点だそうです。

—このお話を聞いて、前、盲者は昔から社会の中で生きていられたが(上は検校、下は瞽女まで)、ろう者は家の中に隔離されていたと言う話を思い出しました。関係しているのかどうかわかりませんが。—

ろう教育は、教え方がいろいろ変わってきていて、これはそれだけろう教育が模索されてきた事で、確立されていなかった事の現れだそうです。

少し前までろう教育で手話は排除されていましたが、行われていた口話指導の説明には、口話を身につけるためのろう者の努力の大変さに驚きました。ろう学校で発音のために、呼吸訓練、感覚訓練(手の触覚訓練で声帯の動きを知るために)、リズム訓練(言葉をつなげて話せるように)、発音訓練・発語訓練、読話訓練、書き言葉の訓練と健常者ではなんとなく行っている事に対し、膨大なエネルギーが使われていました。例えば、口話指導では、長い息を吐く訓練というのがあるそうです。話をする時は、息を長く吐いて話をしなければならないからです。健常者は小さい時から無意識に、言葉を少しづつ覚えていく段階で、自然に息を長く吐く事を身につけていたようです。

しかし、ろう者にとって、口話訓練は借り物の情報伝達手段であって、本当の手段は手話である事から、最近はやや、手話が学校で導入されました。

山原先生が心配されていたのは、手話を言語として認められる事で、手話を言葉と同じように受け取られる事です。ろう者にとって、言葉は頭に残っていても、視覚はカメラのようなもので、その一時しか残っていない傾向があるので、その時その時の通訳の言葉の内容はわかっても、続いているその内容を記憶して思考する事は難しいそうです。

ろう教育に音楽の授業もあるそうですが、ろう者は椅子のひじ掛けや前の人の背もたれの振動を感じて音楽を楽しむそうです。音が疎密波である事で、振動を感じる事が出来るのですね。口話法での発音訓練は、いわゆる1語1語の音を訓練する事だけでなく、発語訓練という

ことが必要だそうです。これは健常者は無意識にやっている事で、言葉として話をする時、あたまの音に他の音が続くとき、音が崩れる事です。例えば、んの音は、「トンボ」「マント」と発音する時と、「パン屋さん」「パンとミカン」では音の出し方が異なるのです。言われてみると無意識に区別していた事に気づきます。

読話は、唇の形だけでなく舌の位置なども見ているようで、単語でなく出来るだけ他の語を続ける事でわかりやすくするそうです。

最後に、手話通訳をする場合は、次のような立ち位置に気を付けます。

① 光が通訳者の正面から当たる事 ② ろう者は相手の口を見上げる方が良い。③ 距離は、45cm から 2m まで

すて言葉：教えたい言葉(動詞)だけでなく、その動詞を使う状況をあれこれ想定して、どのような状況で使うかの例題をたくさん示して教えていく事。ろう教育の始まりは、今は 1 才位のろうと分かった段階で始まるそうですが、母親も一緒に授業を受け、家でもすて言葉を授業と同じように使って、子供に何度も教え、子供が言葉(動詞)の意味を知り、上達につながるようにするそうです。

山原先生は、学校で校長に叱られながらも、生徒達から手話を習っていたそうです。何故なら、口話だけではろうの生徒と将来の事等を話せなかったからです。手話言語条例が出来てからも、学校を卒業してからのろう者の環境を考えると、書き言葉をどこまで教えるべきなのか、手話だけでどこまで出来るのかの課題があり、手話だけでなく、書く力も必要と考えておられます。

この講演を聴いて、ろう者の世界をほんの少し垣間見えた気がしました。見えている事と聞こえない事が、このように大きく異なる事を知りませんでした。

唯、山原先生の時代に比べ、現在は、幼いころからの補聴器の使用やテレビなどの字幕の発達で、ろう者の書き言葉(健常者の話し言葉)の習得はずっと進んできているのではと思います。機器の発達が、今までのハンディを少しだけ改善していってくれば、文明の発達の正面の面としてとらえられ、少し明るい気持ちになります。

三原翠